

ヒスタグロビンとは

- ・ アレルギーを治療するお薬です。気管支喘息、アレルギー性鼻炎、じんま疹、慢性湿疹、アトピー性皮膚炎に有効です。有効率は、約 50～70%と報告されています。
- ・ 人免疫グロブリンに微量のヒスタミンを加えた配合剤です。他のお薬とは異なり、アレルギー体質を改善して症状をなおす注射です。
- ・ 成分である人免疫グロブリンは国内献血血液から製造されています。感染症のリスクを排除するために、現在の最高水準の安全対策を行っています。本剤は昭和 42 年に国内で発売以来、感染症を起こしたことはありません。
- ・ 自己負担(ヒスタグロビンの薬剤費のみ)は、3割負担の場合、1回あたり220円～430円となります。

ヒスタグロビンの作用は

- ① アレルギー症状の“悪化・慢性化”を抑えます。
- ② ヒスタミンの放出を抑え、くしゃみ、鼻水、痒み、浮腫などのアレルギー症状を改善します。
- ③ ヒスタミンに対する抵抗力を与えます。

アレルギーの治療方法

対症療法

- ・ お薬を使用中は症状が抑えられます。
- ・ 抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の内服、点鼻薬ステロイドの点鼻薬などがあります

根本療法

- ・ アレルギー体質を根本から改善する治療です。
- ・ 特異的減感作療法と非特異的変調療法があります。注射が主体です。

- ・ アレルギーの治療には対症療法と根本療法があります。
- ・ ヒスタグロビンの治療は、根本療法のうち非特異的変調療法に入ります。

主な副作用(カッコ内は、頻度)

●じんま疹
(0.1～5%)



●ぜんそく発作
(0.1～5%)



●頭痛
(0.1～5%)



●注射をした
ところが痛い
(0.1～5%)



●発熱
(0.1～5%)



●AST(GOT)、
ALT(GPT)の上昇
(0.1%未満)



●ショック(まれ)

投与方法:【アレルギー性鼻炎、血管運動性鼻炎、アトピー性皮膚炎、じんま疹、慢性湿疹の患者さんには】
1回1バイアルを、成人は週1～2回(小児は週1回)の間隔で、3回又は6回皮下に注射します。

【気管支ぜんそくの患者さんには】

1回1バイアルを、成人は週1～2回(小児は週1回)の間隔で、6回皮下に注射します。

※ 効果が弱い時は、追加の注射をすることがあります。その場合、大人は増量も可能です。

効果が認められた後は、3～4ヶ月ごとに1回の注射を反復します。